

新入生歓迎号

遺跡の上にたつ山口大学

教養・教育・経済・人文・理学・農学・本部－吉田遺跡
教育学部附属山口小学校・中学校・幼稚園－亀山遺跡
教育学部附属 光 小学校・中学校－御手洗遺跡

吉田地区の遺跡保存地区

山口大学の一番大きなキャンパス、吉田地区は、県内でも有数の遺跡です。ここには、縄文時代（今から約3000年前）から現代までの長い間、人々が生活してきた跡があります。それは、昔の人々が地面に掘った穴や捨てたゴミ、落とした持ち物などが土に埋まって残っていることからわかります。

教育学部の隣の第一学生食堂のそのまた隣の空き地は遺跡保存地区と呼んでいます。たいてい広くありませんが、ここでは、弥生時代から古墳時代の竪穴住居（家）の跡が21軒と川の跡が見つかり、また、当時の人々が使っていた土器などの道具もたくさん発見できました。見つかったものは、埋蔵文化財資料館に収蔵し、適宜入れ替えながら展示しています。また、現地は、いずれ右図のように公園化し、皆さんの憩いの場にと考えています。



保存地区の整備予想図

- | | |
|------------------------|----------------------|
| ・遺跡の上にたつ山口大学－保存地区－ … 1 | ・山口県の遺跡めぐり－鎌倉時代－ … 4 |
| ・第5回企画展6月上旬より開催 …… 2 | ・遺物からの「発見！！」－銅銭－ … 5 |
| ・シリーズ接点9－古地震－ …… 3 | ・業務報告（調査・寄贈図書） …… 6 |

企画展《さわってみる歴史》第5回

『古代人の生産活動—海・山・陸—』

6月上旬より開催

埋蔵文化財資料館では、『古代人の生産活動—海・山・陸—』と題し、今年度前半の展示を、6月上旬より開催します。古代の人々の生業を、わかりやすく解説しますので、どうぞお楽しみに。

★期間 平成2年6月上旬～9月30日

★時間 平日8:30～17:00 土曜8:30～12:30 (日曜祝日休み)

★場所 吉田キャンパス内 埋蔵文化財資料館展示室

今回は、山口大学の各キャンパスで見つかったものに加え、当館で所蔵する山口県内で発見された遺物を中心に展示を予定しています。

海の場面では、漁撈・塩づくりの道具を、山の場面では狩猟の道具を展示します。陸では焼き物の生産・布づくりの道具・農業生産に使われた道具を展示し、また、弥生時代の人々の住居の様子の一部を実物大に近い絵を使って表現します。また、商業活動の面も取り上げ、貨幣や大陸から輸入された陶磁器なども展示します。



塩づくりの様子（『やまぐち郷土読本』より）



発掘に使う道具（『太陽』1989.12より）

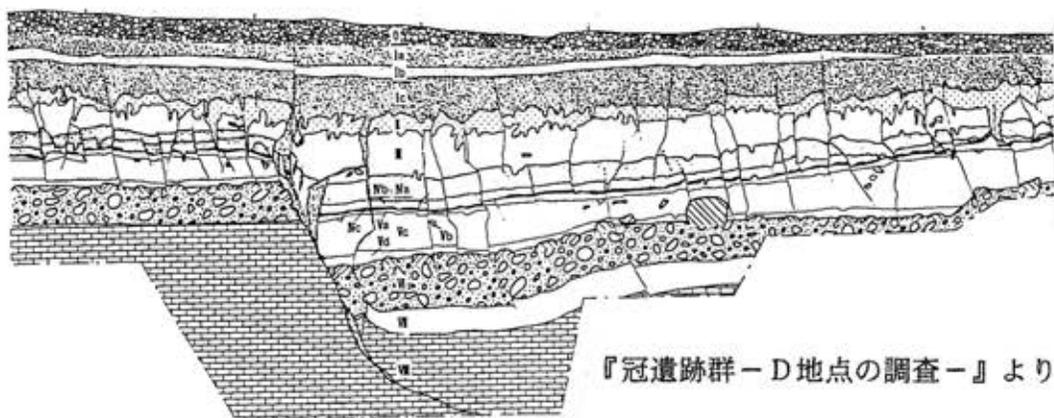
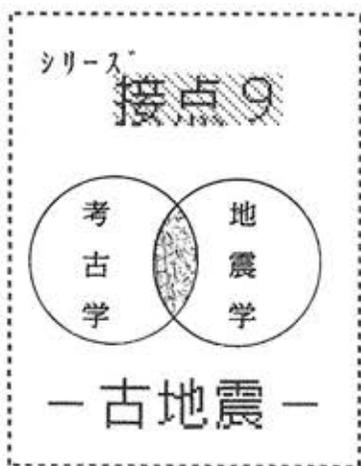
また、あわせて発掘調査の手順・必要な機材や道具も並べ、来館者の方々に、少しでも、埋蔵文化財への御理解を深めていただければと考えています。どうぞ、お気軽においでください。

怖いものの代表に、“地震、雷、火事、親父”という言葉がありますが、地震はその筆頭です。発掘調査時に、断層や噴砂などの形で地震の痕跡が見つかることがあります。

下の図は、山口県と広島県の県境の冠遺跡（広島県佐伯郡吉和村）発掘調査の時の土の層の様子です。同じ模様は元々はひとつの層でしたが、真中より左寄り大きく段違いになっています。これが断層です。断層により、川の下流の方の土地が相対的に高くなり、せき止め湖になる事もあります。その場合、湖の底になった所に住んでいた人々は、家をかわり、通っていた街道も経路を変えることとなります。

噴砂は、地表面下のやや浅い所に堆積している砂の層が、地震のエネルギーで圧縮され、上の層を突き破って噴き出したものです。土中の粒子の積み重ねが狂うために、その直上にある建物が倒壊することもあります。

考古学と地震学の研究の相互の成果により、地震の起こった時期や大きさが推定できます。考古学の上では、自然堆積では考えられなかった現象（水田面が水平でない、住居跡の床がでこぼこなど）の理解ができ、地震学の上では、遺跡の年代を基準に、一定周期を持つ地震の次の活動時期を推定する重要な要素を得ることができます。



『冠遺跡群—D地点の調査—』より

 * 本冊子は、各講座、教官に1部づつ配布していますが、ぜひ学生個人でもお持ちい*
 ただきたいと考えています。当館で配布していますので、御希望の節は、お気軽に御
 来館ください。各学部の事務室にも置いてありますので、御自由におとりください。



山口県の 遺跡めぐり - 鎌倉時代 -

山口県内の鎌倉時代の遺跡は、今訪れて見れる所は少なくなっています。山陽新幹線、山陽自動車道の下に多くが消えてしまいました。今回は、埋蔵文化財そのものではありませんが、寺院を2箇所紹介したいと思います。

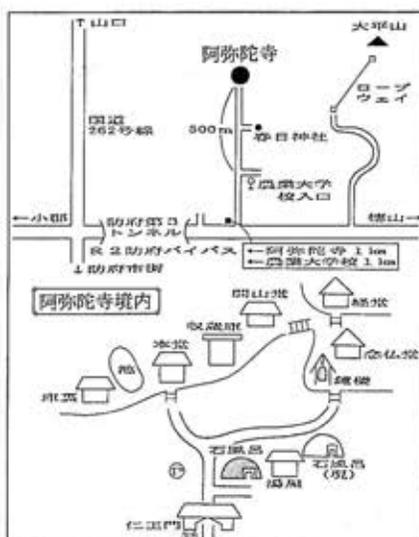
お寺に行かれた時は、まず本尊に向かい、お邪魔いたしますと手を合わせてください。それがエチケットだと思います。

あみだじ 阿弥陀寺 (防府市牟礼)

JR防府駅から防長バス坂本団地行き 農業大学校
入口下車 宝物収蔵庫拝観料200円

東大寺の鎌倉時代の再興の際に、周防国は造営料国に指定され、多くの木材を切り出しました。その時、大勸進役の俊乗坊重源上人しゅんじょうぼうちゅうげんが作った寺が阿弥陀寺です。鎌倉時代の建物は火災にあい、今の建物は室町時代より後の建設ですが、仁王門の金剛力士像、宝物収蔵庫の重源上人座像、鉄製宝塔や水晶製五輪塔、東大寺銘の鉄製槌印などは鎌倉時代の貴重な遺品です。

寺域は緑が深く、森林浴にぴったりです。また近年造った石風呂では、毎月3～5日に古代風サウナが体験できます。



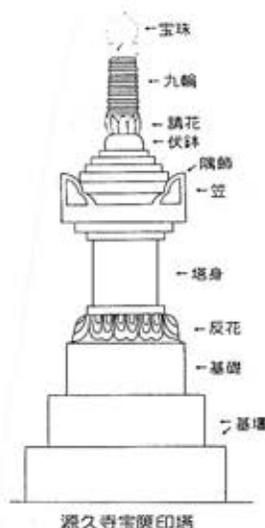
げんきゅうじ ほうきょういんとう 源久寺 宝篋印塔 (山口市仁保下郷)



山口市営バス仁保井開田行 仁保市下車
宝篋印塔は、教典を納めるためや、墓標として作られます。源久寺のものは、

年号は、刻まれていませんが、1224年没の平子重経の墓と伝えられ、形から鎌倉時代後期のものと推定できます。塔の先端が欠けてなくなっているのが残念です。

源久寺本尊の阿弥陀如来座像および平子重経座像も鎌倉時代の大切な文化財です。



『山口の文化財』より

※※※【資料紹介コーナー】※※※ 遺物からの「発見!!」 ※※※

古代のお金－銅銭－

今、私達が使っている硬貨は、アルミ、銅、錫、ニッケル等の合金製で、記念銀貨、金貨もあります。古代の硬貨はどうだったのでしょうか？

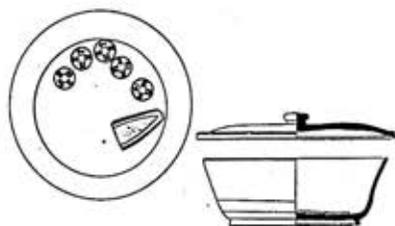


日本では、奈良時代に初の銅銭（銅＋錫＋鉛の合金）「和銅開珎」^{わどうかいぼん}が作られました。この頃は、銭一枚が労働者一日の賃金にあたりました。その後約250年間に12種類の硬貨が作られ、銅銭を中心に銀銭、金銭もありました。これらは、国内の数箇所で鑄造され、山口県内でも、下関市に長門鑄銭司（今で言う造幣局）、山口市に周防鑄銭司が置かれました。

中世は、国産の硬貨はなく、中国、朝鮮半島から輸入された銅銭で日本の経済が成り立っていました。輸入された硬貨は、どれも一枚の価値を同じに扱い、96～100枚を一束にして持ち運ばれることもありました。

江戸時代には、再び国内で硬貨が作られます。金貨・銀貨もありましたが、庶民に縁があるのは、銅銭、鉄銭の「寛永通寶」でした。山口県内では、美東町の銭屋（長州藩銭座跡）で作られました。

お金は、今でも賽銭としたり、五円玉をお守りにするように、昔の人々は、おまじないにも使いました。例えば、奈良～平安時代には、子供の健康を祈り、壺の中にお金と胞衣（胎盤）・墨・筆・小刀を入れて土の中に埋めました。寺を建てる時は、金銀などの宝物と共に柱の根元にお金を埋めました。中世以降には、墓の中に、三途の川の渡し賃にあたるお金を六枚前後入れました。



胞衣壺（平城京出土）

山口大学の構内遺跡では、これまでに、中世の「開元通寶」^{かいげんつうほう}「元豊通寶」^{げんぽうつうほう}「熙寧元寶」^{きねいげん}「皇宋通寶」^{こうそうつうほう}、近世の「寛永通寶」^{かんえいつうほう}が見つかっています。



大学会館敷地から見つかった銅銭（拓影）

業務報告 【1990年2月～4月】

★調査 立会調査5件

1. 吉田 大学会館前庭部環境整備に伴う立会調査（3月7日）…顕著な知見なし
2. 常盤 工学部夜間照明装置及び防球ネット設置に伴う立会調査（2月22日）
…顕著な知見なし
3. 工学部記念植樹に伴う立会調査（3月22日）…顕著な知見なし
4. 亀山 附属小学校・幼稚園公共下水道使用開始に伴う污水配水管埋設に伴う立会調査
（～3月14日）…遺構（溝1、柱穴1）・遺物検出
5. その他 本部職員宿舎1号公共下水取設に伴う立会調査（3月5日）…顕著な知見なし

★外部からの図書寄贈 貸出もしています。ご利用ください。〔【発行所】『書名』〕

- 【宇美町教育委員会】…『川原田・供田遺跡群』
- 【別府大学付属博物館】…『松山遺跡』
- 【福岡市歴史資料館】…『福岡市歴史資料館年報17』『福岡市歴史資料館研究報告14』
- 【宇佐風土記の丘歴史民俗資料館】…『宇佐風土記の丘歴史民俗資料館ニュース21』
『宇佐風土記の丘歴史民俗資料館ニュース22』
- 【（財）広島県埋蔵文化財調査センター】…『ひろしまの遺跡第40号』
- 【日本はきもの博物館】…『日本はきもの博物館だより37』『同38』
- 【泉佐野市教育委員会】…『昭和63年度泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要Ⅸ』
『日根野遺跡』『湊遺跡』
- 【（財）枚方市文化財研究調査会】…『ひらかた文化財だより』
- 【（財）八尾市文化財調査研究会】…『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告書 昭和63年度』
『跡部遺跡』『亀井遺跡』
- 【大手前女子大学史学研究所・文化財調査室】『いな No.1』『いな No.2』
- 【（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター】…『京都府埋蔵文化財情報第34号』
- 【榎原考古学研究所】…『発掘された宇陀の古代文化』
- 【名古屋市博物館】…『名古屋市博物館だより72』『名古屋市博物館だより73』
- 【富山県埋蔵文化財センター】…『埋文とやま第30号』
- 【富山大学考古学研究室・立山町教育委員会】…『立山町埋蔵文化財分布調査報告Ⅴ』
- 【珠洲市立珠洲焼資料館】…『珠洲の名陶』

編集余話

衣替えも間近、季節は春から夏へ移ろうとしています。今回は、新学年号として保存地区の記事を掲載しました。毎度のことと思われる方もおいでと思いますが御容赦ください。新入生の方々、大学で新しい土地での学生生活を有意義に過ごしてください。

山口大学埋蔵文化財資料館だより

No.9 【1990年春の号】

発行 1990年5月30日
 編集 山口大学埋蔵文化財資料館
 〒753 山口市大字吉田1677-1
 TEL代0839-22-6111（内線299）
 利用案内（入館無料）
 8:30～17:00（土曜12:30まで）
 日曜・祝日休館

